

## 【 専門分野 】 成人看護学・老年看護学 18単位 645時間

### I. 科目構築の考え方

成人看護学では、身体的・精神的・社会的・性的に成熟し、社会の一員として中心的な役割と責任を担う立場にある成人期にある方を対象とする。老年看護学では、社会の変遷の中で生き抜き、人生の完結を迎えていく段階の老年期にある方を対象とする。平均寿命100歳といわれる今日のライフサイクルでは、成人期から老年期にわたる時期は長く、社会背景と個別な価値観に基づく生活者としての生活が連続し、その人の健康レベルや生活状況に影響している。また、成人期から老年期の移行については明確な区切りがなく、極めて個別的である。成人期から老年期にある対象は、多様な場で生活し、あらゆる健康レベルにある人々である。この期にある対象の健康問題は、長い経過の中で複雑性や多様性を増し、多様な主観的健康観をうみだしている。その人にとって最適な健康を保持・促進させるための看護援助や、地域の人々や他の専門職と連携・協働しながら住み慣れた場と治療の場を橋渡しする役割を理解することを学ぶ内容として成人・老年看護学概論を設定する。成人・老年を取り巻く社会環境と生活の状況を広く理解し、健康レベル（健康の保持・増進及び疾病の予防）について健康支援を含む内容として、成人・老年看護学保健論を設定する。健康レベル（健康の回復）にある看護の対象とその家族の理解、健康問題への医学的対応・管理と看護を学ぶ内容として、成人・老年看護学方法論Ⅰ～Ⅵを設定する。また、多様な場で生活するあらゆる健康レベルにある看護の対象に適切な時期に適切な方法で看護を提供する看護実践能力を習得するため、専門基礎分野や専門分野の基礎看護学で学んだ臨床推論を基に他職種・多職種とともに健康問題の解決を学ぶ内容として、成人・老年看護過程演習を設定する。臨地実習では、あらゆる健康レベルにある対象とその家族に対する個別的な看護を学ぶ内容として成人・老年看護学実習を設定する。

### II. 目的・目標

#### 1. 目的

成人期・老年期にある対象の特徴とその家族の健康ニーズに対応する看護を学ぶ。

#### 2. 目標

- 1) 成人期・老年期にある対象の特徴を理解し、看護実践に活用できる理論と療養の場の移行支援を理解する。
- 2) 成人期・老年期にある人びとを取り巻く環境が対象の健康状態に及ぼしている影響と保健・医療・福祉システムの動向を理解し、健康の保持・増進及び疾病の予防に対する看護を理解する。
- 3) 健康レベルの変化をきたし、急性期・慢性期・回復期・終末期にある対象とその家族の特徴を理解し、健康問題への医学的対応・管理と看護を理解する。
- 4) 多様な場で生活するあらゆる健康レベルにある看護の対象に適切な時期に適切な方法で看護を提供するための臨床判断を理解する。

### Ⅲ. 科目の構成

専門分野	科目名 (時間)	単元 (時間)
成人看護学 老年看護学 18単位 645時間	成人・老年看護学概論 (1単位 30時間)	成人期にある対象の特徴と看護 (12)
		老年期にある対象の特徴と看護 (18)
	成人・老年看護学保健論 (1単位 30時間)	成人期にある対象を取り巻く環境と生活の状況 (2)
		成人期にある対象における健康のとらえ方と健康支援の活動 (6)
		成人期にある対象の健康をおびやかす要因と看護 (4)
		成人期にある対象の生活と健康をまもりはぐくむシステム (4)
		成人期にある対象のヘルスプロモーション (4)
		老年期にある対象を取り巻く環境と生活の状況 (6)
		老年期にある対象の生活機能低下の予防 (4)
	成人・老年看護学方法論Ⅰ (1単位 30時間)	長期にわたり疾病のコントロールが必要な対象とその家族の特徴と対象への看護 (6)
		長期にわたり疾病のコントロールが必要な成人期にある対象のセルフケア支援 (事例①) (12)
		長期にわたり疾病のコントロールが必要な成人期にある対象のセルフケア支援 (事例②) (4)
		長期にわたり疾病のコントロールが必要な老年期にある対象のセルフケア支援 (事例③) (8)
	成人・老年看護学方法論Ⅱ (1単位 30時間)	加齢に伴う機能の変化に応じた看護 (8)
		老年期にある対象の回復を妨げる特有の症状と看護 (10)
		治療を必要とする高齢者の看護 (8)
		認知機能障害のある高齢者の看護 (4)
	成人・老年看護学方法論Ⅲ (1単位 30時間)	人生の最期のときにおける医療の現状 (4)
		人生の最期のときを過ごす成人期・老年期にある対象と家族の理解 (6)
		緩和ケア (16)
		死後のケアの実際 (2)
		人生の最期の時をむかえる場の広がり (2)
	成人・老年看護学方法論Ⅳ (1単位 30時間)	回復期の看護を展開するための基盤 (8)
障害がある成人期・老年期にある対象の経過別看護 1)急性期～回復期に向けたリハビリテーションと看護 (事例①) (6)		
障害がある成人期・老年期にある対象の経過別看護 2)回復期のリハビリテーションと看護実践 (事例②) (4)		
(事例③) (4)		
(事例④) (8)		

専門分野	科目名 (時間)	単元 (時間)
	成人・老年看護学方法論V (1 単位 30 時間)	急激に健康状態が変化する対象の特徴 クリティカルケア看護の特性 (2)
		救急看護の概念、救急看護体制と看護の展開 (2)
		救急処置と看護 (6)
		クリティカルな状態にある対象の看護 (6)
		周手術期における成人期・老年期にある対象の看護 の実際 (6)
		術後看護の実際 開頭術 開腹術 開心・開胸術 (8)
	成人・老年看護学方法論VI (1 単位 30 時間)	がん医療の現状と看護、がんの病態と臨床経過 がんの治療 (4)
		がんの治療、がんの浸潤と転移 (4)
		がん患者の看護 (4)
		がん治療に対する看護 (14)
	成人・老年看護過程演習 (2 単位 45 時間)	急性期から回復期に向かう成人期・老年期にある対 象の看護過程 (24)
		慢性期から終末期に向かう成人期・老年期にある対 象の看護過程 (22)
	成人・老年看護学実習 I (1 単位 45 時間)	疾病の予防、健康の保持・増進が必要な成人期にあ る対象への看護 (45)
	成人・老年看護学実習 II (2 単位 90 時間)	長期にわたり疾病のコントロールが必要な成人期・ 老年期にある対象への看護 (90)
	成人・老年看護学実習 III (2 単位 90 時間)	人生の最期のときにある成人期・老年期にある対象 への看護 (90)
	成人・老年看護学実習 IV (2 単位 90 時間)	疾病からの回復過程にある成人期・老年期にある対 象への看護 (90)
	成人・老年看護学実習 V (1 単位 45 時間)	急激に健康状態が変化し集中治療を要する生命の 危機状態にある成人期・老年期にある対象への看護 (90)

#### IV. 授業の概要 (シラバス)

分野	専門分野	科目名 単位(時間)	成人・老年看護学概論 1単位(30時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1年 前期												
講師名 所属	大坪 香織 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師 19年 池ヶ谷 知美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師 19年																		
授業概要	本科目は、身体的・精神的・社会的・性的に成熟し社会の一員として中心的な役割と責任を担う成人期から、社会の変遷の中で生き抜き人生の完結を迎えていく老年期までのライフサイクルにおける成長・発達の特徴について学ぶ。また、その人にとって最適な健康を保持・促進させるための看護援助に活用できる理論や、地域の人々や他の専門職と連携・協働しながら住み慣れた場と治療の場を橋渡しする看護の役割を学ぶ。																		
科目目標	1. 成人期にある対象の特徴と健康や生活の多様性について理解できる 2. 成人期にある対象にとって最適な健康を保持・促進させるための看護に活用できる理論を理解できる 3. 成人各期にある対象への看護アプローチの基本と成人看護の役割が理解できる 4. 老年期にある対象の特徴と健康や生活の多様性について理解できる 5. 老年期にある対象にとって最適な健康を保持・促進させるための看護に活用できる理論を理解できる 6. 老年期にある対象への看護アプローチの基本と老年看護の役割が理解できる																		
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学 1 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 医学書院 4. 中範囲理論入門―事例を通してやさしく学ぶ 日総研																		
参考文献	1. 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 2. 高齢社会白書 内閣府																		
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">筆記試験</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">○</td> <td style="width: 20%;">レポート</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;">技術確認</td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート		技術確認		口頭試問		授業態度		出席状況	
筆記試験	○	レポート		技術確認															
口頭試問		授業態度		出席状況															
授業計画																			
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師														
I. 成人期にある対象の特徴と看護																			
1・2	1. 成人期にある対象の理解 1) 成人期にある対象の生涯発達の特徴 2) 発達段階・発達課題 (1) エリクソン (2) ハヴィガースト 3) 各発達段階の身体的・精神的・社会的特徴 (1) 青年期 (2) 壮年期・中年期 (3) 向老期			講義	大坪 香織														
3	2. 成人期における生活 1) 生活を営むこと 2) 仕事をもち、働くこと 3) 家族からとらえる対象																		
4・5	3. 成人への看護アプローチの基本			講義	大坪 香織														

	1) 生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 (1) 成人期にある対象の健康行動のとらえ方 ① 成人期にある対象の学習 (アンドラゴジー) (2) 行動変容を促進する看護アプローチ ① トランスセオレティカルモデル ② エンパワメント (3) 症状マネジメント ① 症状マネジメントモデル (MSM) ② 自己効力感 2) 効果的な症状マネジメントを導く看護アプローチ 3) 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係		大坪 香織
6	4) 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 5) チームアプローチ 6) 看護におけるマネジメント 7) 看護実践における倫理的判断 8) 意思決定支援 9) 家族支援		
II. 老年期にある対象の特徴と看護			
7	1. 老年期にある対象の理解 1) 老年期にある対象の特徴 (1) 加齢と老化 (2) 加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化 (3) 高齢者の定義 2) 発達段階・発達課題 (1) エリクソン (2) ハヴィガースト (3) ペック 3) スピリチュアリティ 4) 健康と生活	講義	池ヶ谷 知美
8・9	2. 加齢に伴う身体的変化 1) 高齢者疑似体験	演習	
10・11	3. 身体に加齢変化とアセスメント 1) 皮膚とその附属器 2) 視聴覚とその他の感覚 3) 循環器系 4) 血液・造血器系 5) 免疫系 6) 呼吸器系 7) 消化器系 8) 代謝系 9) 泌尿器系 10) 神経系	演習 (グループワーク)	

	11) 運動系		
12	4. 高齢者の生活を支える基本的活動 1) 日常生活を支える基本的活動 (1) 基本動作と環境 ① 評価指標の使い方 ② 基本的 ADL ③ 手段的 ADL ④ 複合的な評価指標 (2) 転倒やその他の事故	講義	池ヶ谷 知美
13	5. 超高齢社会と社会保障 1) 高齢社会における保険医療福祉の動向 (1) 保健医療福祉制度の変遷 ① 老人福祉法 ② 老人保健法 ③ ゴールドプラン・ゴールドプラン 21 ④ 認知症施策 (2) 高齢者医療制度の変遷 ① 高齢者医療確保法の成立 2) 看護職の活動の拡大と専門化		
14	3) 高齢者の権利擁護 (1) 高齢者に対する差別と権利擁護 (2) 高齢者虐待 (3) 身体拘束		
15	6. 老年看護の役割 1) 老年看護の 6 つの役割 2) 老年看護における理論・概念の活用 (1) 離脱理論と活動理論 (2) サクセスフルエイジング (3) 選択最適化補償理論 (SOC 理論) (4) コンフォート理論 (5) ストレングスモデル		
	終講試験	試験 (評価)	単位認定者 池ヶ谷 知美

分野	専門分野	科目名 単位(時間)	成人・老年看護学保健論 1単位(30時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1年 後期
講師名 所属	東垂水 朋子 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師 15年 池ヶ谷 知美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師 19年						
授業概要	成人期・老年期にある対象を取り巻く社会環境と生活の状況について保健統計や保健対策の変遷などから社会の動向や将来像をイメージしながら広く理解する。成人期・老年期にある対象を取り巻く保健・医療・福祉システムの動向に基づく健康の保持・増進活動の実際について学ぶ。						
科目目標	1. 社会構造の変化・超高齢社会に伴う保健・医療・福祉の場における課題が理解できる 2. 保健活動の意義を理解し、健康の保持・増進活動について理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学1 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院						
参考文献	1. 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 2. 高齢社会白書 内閣府						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート	○	技術試確認		
	口頭試問		授業態度		出席状況		
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
I. 成人期にある対象の特徴と看護							
1	1. 成人にある対象を取り巻く環境と生活の状況 1) 成人を取り巻く環境と生活の状況 (1) 人口の動向 (2) 世帯の動向 (3) 労働力人口 (4) 世界人口の動向 (5) 保健と医療の動向 ・生活習慣病 ・身体活動・運動 ・休息・睡眠 ・飲酒・喫煙 など			講義		東垂水 朋子	
2～4	2. 成人期にある対象における健康のとらえ方と健康支援の活動 1) 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 2) 成人の健康の状況 (1) 健康格差 (2) 疾病構造と有病率・有訴率 (3) 受領行動・受領の動向 (4) 職業性疾病・業務上疾病 受療状況 (5) 生活習慣病 (6) メンタルヘルスと自殺 3) 健康支援活動の実際			講義・演習			
5・6	3. 成人期にある対象の健康をおびやかす要因と看護			講義		東垂水 朋子	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 健康バランスに影響を及ぼす要因</li> <li>2) 生活行動がもたらす健康問題とその予防</li> <li>3) 飲酒・喫煙と健康問題</li> <li>4) 身体活動量の低下と運動不足</li> <li>5) 肥満</li> <li>6) 生活環境衛生と健康</li> <li>7) 感染症</li> <li>8) 引きこもり、うつ病、ネット依存などの新たな健康問題</li> </ul>		
7・8	<ul style="list-style-type: none"> <li>4. 成人期にある対象の生活と健康をまもりはぐくむシステム</li> <li>1) 保健・医療・福祉システムの概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保健・医療・福祉システムの動向 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 生活習慣病と健康管理の動向</li> <li>② 高齢化対策の動向</li> <li>③ 心の健康に関する医療と保健の動向</li> </ul> </li> <li>(2) 保健にかかわる対策の実際</li> <li>(3) 医療にかかわる対策の実際</li> <li>(4) 福祉にかかわる対策の実際</li> </ul> </li> <li>2) 保健・医療・福祉システムの連携</li> </ul>	講義	東垂水 朋子
9・10	<ul style="list-style-type: none"> <li>5. 成人期にある対象のヘルスプロモーション</li> <li>1) ヘルスプロモーションと看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ヘルスプロモーションとは</li> <li>(2) 個人の主体的な健康づくり</li> <li>(3) 健康増進のための環境づくり</li> </ul> </li> <li>2) ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域社会におけるヘルスプロモーションを促進する看護</li> <li>(2) 職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護</li> </ul> </li> </ul>	演習	東垂水 朋子
<b>II. 老年期にある対象の特徴と看護</b>			
11・12	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある対象を取り巻く環境と生活の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 老年期にある対象を取り巻く環境</li> <li>2) ライフスタイルの特徴</li> <li>3) 超高齢社会の統計的輪郭 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 超高齢社会の現況</li> <li>(2) 高齢者と家族</li> <li>(3) 高齢者の健康状態</li> <li>(4) 高齢者の死亡</li> <li>(5) 高齢者の暮らし</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>4) 要介護者の動向</li> </ul>	講義	池ヶ谷 知美

	<p>5) 老年期にある対象を支える多職種連携と看護活動の多様化</p> <p>(1) 老年期にある対象の生活と健康を支える多様な職種</p>		
13	<p>3) 老年期にある対象を支える多職種連携と看護活動の多様化</p> <p>(1) 老年期にある対象の生活と健康を支える多様な職種</p> <p>(2) 老年期にある対象の生活と健康を支える多様な場</p> <p>①介護保険施設</p>	講義	池ヶ谷 知美
14・15	<p>2. 老年期にある対象の生活機能低下の予防</p> <p>1) 口腔機能と栄養状態の改善</p> <p>2) 老年期にある対象へのヘルスプロモーションの考え方</p> <p>(1) 老年期にある対象のヘルスプロモーション</p> <p>(2) 介護予防とヘルスプロモーション</p> <p>①フレイルの予防</p> <p>②サルコペニア予防</p> <p>③PEM 予防</p> <p>3) リロケーションダメージの回避</p>	講義・演習	池ヶ谷 知美
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 東垂水 朋子

分野	専門分野	科目名 単位(時間)	成人・老年看護学方法論Ⅰ 1単位(30時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1年 後期
講師名 所属	近松 あや 嬉野医療センター 緩和ケア認定看護師 上野 敏幸 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師7年 山田 祐子 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師16年						
授業概要	慢性期にあり長期にわたり疾病のコントロールが必要な成人期・老年期にある対象の理解と看護の特徴について学ぶ。病とともに生活を営んでいくためには、再発予防や身体機能の維持・改善を目指した長期的なケアや治療が必要となる。対象自身がこれらを継続できるように必要な支援について、既習した成人学習理論、エンパワメント、トランスセオレティカルモデル(行動変容ステージモデル)、自己効力を想起しながら看護の実際を学ぶ。						
科目目標	1. 長期にわたり疾病のコントロールが必要な成人期・老年期にある対象とその家族の特徴を理解できる 2. 慢性疾患を抱え長期にわたり疾病のコントロールが必要な成人期・老年期にある対象に必要なセルフマネジメント支援を理解できる 3. 慢性疾患に対する看護の実際を理解できる 4. 長期にわたり疾病のコントロールが必要な大人に対し、必要な社会資源と他職種・多職種の連携・協働について理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学1 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院 4. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院 5. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 医学書院						
参考文献	適時紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート		技術確認		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1～3	1. 長期にわたり疾病のコントロールが必要な対象とその家族の特徴 1) 慢性疾患をもつ対象の特徴 2) 慢性病とともに生きること (1) 自己概念の変化 (2) 慢性病と役割 (3) 病みの軌跡 2. 長期にわたり疾病のコントロールが必要な対象への看護 1) セルフケアおよびセルフマネジメントへの支援 2) 生活の再構築への支援 (1) 主体的取り組みの促進 ローカスオブコントロール			講義		上野 敏幸	

	<p>ヘルスビリーフモデル</p> <p>(2)教育的アプローチ</p> <p>3.長期にわたり疾病のコントロールが必要な対象のセルフケア支援</p> <p>1)生活の再構築における支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドヒアランス</li> <li>・ソーシャルサポートの活用</li> <li>・チームアプローチ</li> </ul>		
4～9	<p>2 長期にわたり疾病のコントロールが必要な対象のセルフケア支援（事例①Ⅱ型糖尿病、男性、成人期）</p> <p>1)対象の特徴</p> <p>2)セルフマネジメント支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・症状マネジメント</li> <li>・サインマネジメント</li> <li>・ストレスマネジメント</li> </ul> <p>3)生活の再構築における支援</p> <p>4)多職種連携、退院支援</p>	講義・演習	上野 敏幸
10・11	<p>4.長期にわたり疾病のコントロールが必要な対象のセルフケア支援（事例②喉頭がん、男性、向老期）</p> <p>1)対象の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・喪失体験</li> </ul> <p>2)喉頭摘出をした対象への看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声ならびに嚥下の障害に対するリハビリと看護</li> </ul> <p>3)生活の再構築における支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能障害に伴う喪失へのサポート</li> <li>・患者会の役割</li> <li>・日常生活の工夫</li> </ul>	講義	近松 あや
12～ 15	<p>5.長期にわたり疾病のコントロールが必要な対象のセルフケア支援（事例③変形性膝関節症、女性、老年期）</p> <p>1)対象の特徴</p> <p>ボディイメージの変容</p> <p>2)セルフマネジメント支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・症状マネジメント</li> <li>・サインマネジメント</li> <li>・ストレスマネジメント</li> </ul> <p>3)生活の再構築における支援</p>	講義・演習	山田 祐子
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 上野 敏幸

分野	専門分野	科目名 単位(時間)	成人・老年看護学方法論Ⅱ 1単位(30時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2年 前期												
講師名 所属	南川 栄子 嬉野医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 池田 貴子 嬉野医療センター 認知症看護認定看護師 池ヶ谷 知美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師19年 東垂水 朋子 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師15年 橋本 沙樹 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師12年																		
授業概要	加齢による機能の変化に伴う症状とそれに対する看護について学ぶ。また、老年期にある対象の回復を妨げる特有な症状とそれに対する看護や、治療を必要とする老年期にある対象の看護について学び、それらの学びを統合させ、障害を持ちながら生活をしている対象に対してのその人らしい日常生活援助について学ぶ。																		
科目目標	1. 老年期にある対象の機能変化に伴う看護が理解できる 2. 老年期にある対象の健康問題の特徴と症状・検査・治療に対する援助を理解できる																		
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [12] 皮膚 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 医学書院 4. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院																		
参考文献																			
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:25%;">筆記試験</td> <td style="width:10%; text-align:center;">○</td> <td style="width:25%;">レポート</td> <td style="width:10%;"></td> <td style="width:15%;">技術確認</td> <td style="width:15%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート		技術確認		口頭試問		授業態度		出席状況	
筆記試験	○	レポート		技術確認															
口頭試問		授業態度		出席状況															
授業計画																			
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師														
1・2	1. 加齢に伴う機能の変化に応じた看護 1) コミュニケーション (1) コミュニケーションを妨げる機能変化 ① 視覚（視力、調節力、色覚、明暗順応、視野） ② 聴覚（純音聴力、語音弁別脳、加齢性難聴） ③ 発話（発声・発語器官、認知機能、神経伝達機能） (2) 老年期にある対象に多いコミュニケーションを妨げる障害 ① 脳神経障害（失語症・構音障害・麻痺） (3) コミュニケーション障害とアセスメント (4) コミュニケーション障害のある方とのコミュニケーション方法 ① 環境の工夫 ② 声のトーンやスピード ③ 伝達手段（媒体）の工夫 ④ 理解の確認			講義・演習	池ヶ谷 知美														
3・4	2) 身体の加齢変化とアセスメント (1) 高齢者に特徴的な変調と食事・食生活の支援 (2) 高齢者におこりやすい排泄機能障害と日常生活動作能力に応じたケア			講義	池ヶ谷 知美														

	<p>(3) 高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題  (4) 高齢者に特徴的な生活リズムの変調  (5) 高齢者のセクシュアリティ  3) 加齢に伴う姿勢と歩行の変化のある対象への看護  (1) 姿勢と歩行の変化に伴うリスク  (2) リスクを回避するための看護介入  (3) 歩行補助具を使用した移動への援助  (2) 巧緻性低下のある対象への看護  ① 巧緻性の低下と日常生活への影響  ② 巧緻性低下のある対象への看護  i. 日常生活の工夫  ii. 巧緻性を高める支援の実際</p>	講義	池ヶ谷 知美
5・6	<p>2. 老年期にある対象の回復を妨げる特有の症状と看護  1) 皮膚の脆弱  2) 褥瘡・スキンテア  (1) 症状の成り立ちと臨床的特徴  (2) リスクアセスメント  (3) 褥瘡リスクの評価ツール  (4) 褥瘡・スキンテア予防の実際</p>	講義・演習	南川 栄子
7～9	<p>2. 老年期にある対象の回復を妨げる特有の症状と看護  3) 老年症候群  (1) 老年症候群の特徴  (2) おもな徴候  ① 睡眠障害      ② せん妄      ③ 抑うつ  ④ 脱水            ⑤ 浮腫        ⑥ しびれ・麻痺  ⑦ 骨粗鬆症      ⑧ 低栄養      ⑨ るいそう  ⑩ 下痢・便秘  (3) 老年症候群の症状別看護</p>	講義	池ヶ谷 知美
10～12	<p>3. 治療を必要とする高齢者の看護  1) 検査を受ける高齢者の看護  2) 薬物療法を受ける高齢者の看護  (1) 加齢に伴う薬物動態の変化  (2) 高齢者に特徴的な薬物有害事象  (3) 老年症候群と薬物有害事象  (4) 薬物療法における援助</p>	講義	橋本 沙樹
13	<p>3) 手術療法を受ける高齢者の看護  (1) 手術を受ける高齢者の特徴  (2) 術前・術後の看護マネジメント  (3) 高齢者に特徴的な手術</p>	講義	東垂水 朋子

14・15	<p>3. 認知機能障害のある高齢者の看護</p> <p>1) 高齢者のうつ</p> <p>2) せん妄</p> <p>3) 軽度認知障害 (MCI)</p> <p>4) 認知症</p> <p>(1) 認知症の症状</p> <p>(2) 認知機能・生活機能の評価</p> <p>(3) 認知症の人と家族の支援</p>	講義	池田 貴子
	終講試験	試験 (評価)	単位認定者 池ヶ谷 知美

分野	専門分野	科目名 単位(時間)	成人・老年看護学方法論Ⅲ 1単位(30時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2年 後期												
講師名 所属	橋本 沙樹 大坪 香織 近松 あや 小森 康代 副島 かおり	嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター	嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター	教員 教員 緩和ケア認定看護師 緩和ケア認定看護師 看護師	実務経験：看護師 12年 実務経験：看護師 19年														
授業概要	<p>終末期にあり人生の最期のときを過ごす成人期・老年期にある対象とその家族の看護を学ぶ。終末期にある対象とは、病気の進行を食い止めることができず、健康の回復が困難で、病とともに生きる状態にある人を指す。同じ疾患を抱える患者であっても、死に至る過程は様々ではなく、その人や家族が大切にしてきたこと、価値観や人生観によって大きく異なる。すなわち死は多様である。</p> <p>人生の最期のときを過ごす対象とその家族の看護では、その人がありのままの自分を受容し、その人らしく人生を生き抜き、能き死を迎えられよう、支援することが求められる。講義・演習を通し、人生の最期のときを過ごす対象とその家族の特徴を理解し、死をめぐる医療の現状とケア、苦痛の緩和など看護の実際について学ぶ。</p>																		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人生の最終段階にある人の身体的・精神的・社会的・霊的特徴について理解できる</li> <li>2. その人らしい人生を送るための支援について理解できる</li> </ol>																		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院</li> <li>2. 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 医学書院</li> <li>3. 系統看護学講座 専門分野 緩和ケア 医学書院</li> </ol>																		
参考文献	適時紹介する																		
評価方法	<p>詳細は別紙「評価計画」参照</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">筆記試験</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">○</td> <td style="width: 15%;">レポート</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">○</td> <td style="width: 15%;">技術確認</td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート	○	技術確認		口頭試問		授業態度		出席状況	
筆記試験	○	レポート	○	技術確認															
口頭試問		授業態度		出席状況															
授業計画																			
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師													
1・2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人生の最期のときにおける医療の現状               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 延命治療から自己決定を重視した医療へ</li> <li>(1) クオリティオブライフ (QOL) の考え方</li> <li>(2) 人生の最期のときの療養の場所</li> <li>(3) 望ましい死</li> </ol> </li> <li>2) 人生最期のときにおける緩和ケア ターミナルケア・ホスピスケア エンド・オブ・ライフケア</li> </ol>			講義 (動画視聴含む)		橋本 沙樹													
3～5	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 人生最期のときを過ごしている成人期・老年期にある対象の理解               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人間にとっての死</li> <li>2) 全人的苦痛 (トータルペイン)</li> </ol> </li> <li>3. 人生最期のときを支える看護               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 意思決定支援</li> <li>2) アドバンスケアプランニング</li> <li>3) 生きる意味の探求への援助</li> <li>4) 死の準備教育</li> </ol> </li> </ol>			講義・演習		橋本 沙樹													

6～8	4. 緩和ケア 1) 緩和ケアの現状と展望 2) 緩和ケアにおけるチームアプローチ 3) 緩和ケアにおける倫理的課題 (1) 意思決定の支援の実際 (2) ACP 支援の実際 (3) 倫理的問題への対応 4) ライフサイクルにおける緩和ケアの広がり	講義・演習	近松 あや
9・10	5) 全人的ケアの実践 (1) 身体的ケア (2) 心理・精神的ケア (3) 社会的ケア (4) スピリチュアルケア	講義	小森 康代
11	6) 家族のケア (1) 家族ケアのありかた (2) 家族ケアの方法 (3) グリーフと遺族ケア 7) 医療スタッフのケア	講義	副島 かおり
12・13	8) 臨死期のケア (1) 終末期に全身状態の変化の特徴 (2) 臨死期における症状の特徴とケア (3) 臨死期における全人的苦痛の緩和 (4) 死亡前後のケア	講義	大坪 香織
14	5. 死後のケアの実際	演習	
15	6. 人生最期の時をむかえる場の広がり 1) 療養の場の移行支援	講義	副島 かおり
	終講試験	試験 (評価)	単位認定者 橋本 沙樹

分野	専門分野	科目名 単位 (時間)	成人・老年看護学方法論Ⅳ 1 単位 (30 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 後期												
講師名 所属	小松 夏希 南川 栄子 岩本 聡 村上 由紀	嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター附属看護学校 嬉野医療センター附属看護学校	看護師 (看護師特定行為研修終了者) 皮膚・排泄ケア認定看護師 教員 実務経験：看護師 12 年 教育主事 実務経験：看護師 21 年																
授業概要	<p>回復過程にある対象は、急性期治療により生命の危機は脱したものの、合併症や二次的障害のリスクが残存している時期である。また、回復への期待と同時に不安や焦り、喪失感など心理的な変化がみられやすい時期でもある。回復期の看護は、異常の早期発見、二次的合併症の予防を行いながら、対象のもてる力を最大限発揮・活用し自立・自律してその人らしい生活を送れるように支援することである。</p> <p>本授業では、回復過程にある成人期・老年期の対象とその家族の特徴を、事例を通して理解し、生活の再構築を支援する看護を学ぶ。</p>																		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病からの回復過程にある障害がある対象の生活とリハビリテーションの考え方を理解できる</li> <li>2. 健康逸脱からの回復を促す看護の実際を理解できる</li> <li>3. 疾病からの回復過程にある対象が障害に応じた生活を送るための社会資源と他職種・多職種連携・協働について理解できる</li> </ol>																		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院</li> <li>2. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院</li> <li>3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器 医学書院</li> <li>4. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院</li> <li>5. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院</li> </ol>																		
参考文献																			
評価方法	<p>詳細は別紙「評価計画」参照</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">筆記試験</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">○</td> <td style="width: 25%;">レポート</td> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%;">技術確認</td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート		技術確認		口頭試問		授業態度		出席状況	
筆記試験	○	レポート		技術確認															
口頭試問		授業態度		出席状況															
授業計画																			
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師														
1	<p>1. 回復期の看護を展開するための基盤</p> <p>1) 回復期にある対象の理解を深めるための理論と概念の活用</p> <p>(1) ノーマライゼーション (2) セルフケア</p> <p>(3) 自己効力感 (4) エンパワメント</p> <p>(5) ストレングス (6) レジリエンス</p> <p>(7) 障害受容</p>			講義	岩本 聡														
2・3	<p>2) 回復期にある患者への看護援助</p> <p>(1) リハビリテーションチームにおける看護師の役割</p> <p>(2) 障害の受容過程に応じた看護</p> <p>(3) 体力の回復促進</p>			講義・演習	岩本 聡														

	<p>(4)合併症・二次障害のリスクアセスメントと予防</p> <p>(5)生活の再構築に向けた援助</p> <p>3)療養生活を支える家族への援助</p>		
4	<p>4)患者のADL評価とセルフケアの再構築への援助</p> <p>(1)ADL評価尺度の活用</p> <p>(2)ADLのアセスメント</p> <p>(3)リハビリテーション看護とADL</p>	講義	岩本 聡
5～7	<p>2. 障害がある成人期・老年期にある対象の経過別看護</p> <p>1)急性期～回復期に向けたリハビリテーションと看護</p> <p>事例：呼吸機能障害のある対象の看護</p> <p>(1)急性呼吸不全からの回復</p> <p>①酸素療法                      ②気道管理</p> <p>③呼吸理学療法                ④循環管理</p> <p>⑤感染予防                      ⑥心理的ケア</p> <p>(2)患者のADL評価とセルフケアの再構築への援助</p>	講義・演習	小松 夏希
8・9	<p>2)回復期のリハビリテーションと看護実践</p> <p>事例：脳血管疾患のある対象の看護</p> <p>(1)脳血管疾患をもつ対象の経過と看護</p> <p>(2)脳血管疾患による症状・障害をもつ患者の看護</p> <p>①意識障害    ②言語障害    ③認知症</p> <p>④運動麻痺    ⑤運動失調・不随意運動</p> <p>⑥痙攣            ⑦筋力低下    ⑧感覚障害</p> <p>⑨嚥下障害    ⑩排尿障害    ⑪呼吸障害</p> <p>⑫頭蓋内圧亢進</p>	講義	岩本 聡
10・11	<p>3)回復期のリハビリテーションと看護実践</p> <p>事例：慢性心不全の急性増悪に対する看護</p> <p>(1)心不全のある対象の経過と看護</p> <p>①日常生活の自立への支援</p> <p>②病気の回復過程促進への支援</p> <p>③症状のモニタリングおよび自己管理への教育</p>	講義	村上 由紀
12～15	<p>4)回復期のリハビリテーションと看護実践</p> <p>事例：排泄機能に障害のある対象の看護</p> <p>(1)残存機能の活用と新しい能力の創造</p> <p>①残存機能                      ②代償機能</p> <p>(2)ADLのアセスメント</p> <p>①排泄機能障害の症状と生活への影響</p> <p>(3)患者のADL評価とセルフケアの再構築への援助</p> <p>(4)新しい排泄路に適応するための支援</p> <p>①ストマ造設時の看護</p> <p>②ストマ管理とケアの実際</p> <p>(5)ボディイメージの変容に対する看護</p>	<p>講義・演習</p> <p>(グループワーク)</p>	南川 栄子

	(6) 家族への看護 (7) 社会生活のための態勢づくり (8) 在宅ケアと看護師の役割 (9) 社会復帰へのはたらきかけ ① 排泄の調節、工夫点 など		
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 岩本 聡

分野	専門分野	科目名 単位(時間)	成人・老年看護学方法論Ⅴ 1単位(30時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2年 前期
講師名 所属	河上 ひとみ 小川 喜久恵 中山 由理奈 渡辺 功 古川 冬矢 澤井 あゆみ 白武 きりか 岩本 聡	嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター	集中ケア認定看護師 診療看護師 診療看護師 看護師 看護師 看護師 看護師 嬉野医療センター附属看護学校 教員				実務経験：看護師12年
授業概要	<p>急性期にあり急激に健康状態が変化する成人期・老年期にある対象とその家族の看護について学ぶ。急激に健康状態が変化する状況としては、外傷・事故・中毒により生命の危機状態に陥る状況、急激に発症し重篤な症状を伴う急性疾患の発症により生命の危機状態に陥る状況、手術などの侵襲的治療を受けることにより生命の危機状態に陥る状況、慢性疾患の急性増悪により生命の危機状態に陥る状況がある。急激な健康状態の変化に対応する救急看護、生命の危機状態にありクリティカルなケアを必要とする対象とその家族の看護、手術を受ける対象の看護について学ぶ。救急看護は、突発的な外傷、急性疾患、慢性疾患の急性増悪などのさまざまな状況によって、救急処置が必要な対象に実施される看護活動で、救急看護は全ての看護職が実施しなければならない看護である。そのため、救急看護の役割を理解し、救急活動の実際を学ぶ。クリティカルなケアを必要とする対象への看護では、救命救急処置や急性疾患に対する看護を学ぶ。手術を受ける対象の看護では、麻酔・手術侵襲による生体反応と回復を促進するための看護を学ぶ。</p>						
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急激に健康状態が変化する成人期・老年期にある対象の特徴を理解できる</li> <li>2. 救急看護の役割と救急活動の実際を理解できる</li> <li>3. クリティカルなケアが必要な成人期・老年期にある対象とその家族の特徴と看護を理解できる</li> <li>4. クリティカルなケアが必要な成人期・老年期にある対象の病態と看護を理解できる</li> <li>5. 手術を受ける成人期・老年期にある対象の看護を理解できる</li> </ol>						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院</li> <li>2. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院</li> <li>3. 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院</li> <li>4. 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院</li> </ol>						
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院</li> <li>2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [3] 循環器 医学書院</li> <li>3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院</li> <li>4. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院</li> <li>5. クリティカルケア実践の根拠 照林社</li> <li>6. ICU・CCU 看護 医学書院</li> <li>7. 急変アセスメント 照林社</li> </ol>						

評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照				
	筆記試験	○	レポート		技術確認
	口頭試問		授業態度		出席状況
授業計画					
回数	講義内容	教授・学習方法	担当講師		
1	1. 急激に健康状態が変化する対象の特徴 2. クリティカルケア看護の特性 1) クリティカルケア看護とは 2) クリティカルケア看護の場 (1) ICUの種類                      (2) ICUの構造と環境 (3) 施設基準 3) 看護師の役割と求められる能力	講義	河上 ひとみ		
2	3. 救急看護の概念 1) 救急看護とは 2) 救急医療体制 3) 救急看護の場 4. 救急看護体制と看護の展開 1) 初期・第二次救急医療における対応 (1) 看護体制                      (2) 看護の展開 2) 第三次救急医療における対応 (1) 看護体制                      (2) 看護の展開 3) 院内急変時における対応	講義	小川 喜久恵		
3～5	5. 救急処置と看護 1) 外傷への対応 (1) 外傷時の救急処置と検査 (2) 外傷患者の初療時の看護 2) 熱傷への対応 (1) 熱傷時の救急対応と検査 (2) 熱傷患者の初療時の看護 3) 中毒への対応 (1) 中毒時の救急対応と看護 (2) 中毒患者の初療時の看護 4) 心肺停止状態への対応 (1) 一次救命処置 (BLS)      (2) 二次救命処置 (ALS)	講義・演習	中山 由理奈		
6・7	6. クリティカルな状態にある対象の看護 1) 呼吸機能障害への対応 (1) 人工呼吸器の目的と影響 (2) 人工呼吸器の種類 (3) 人工呼吸器装着中の加温・加湿 (4) 気管内吸引      (5) カフ圧管理      (6) ウィニング 2) 循環障害への対応 (1) ショック・循環障害時の初療時の看護	講義・演習	河上 ひとみ		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生命を維持するためのケア</li> <li>②症状アセスメント</li> <li>(2)モニタリングと検査 <ul style="list-style-type: none"> <li>①心電図モニター、十二誘導心電図</li> <li>②血行動態の評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・Aライン測定   ・CVP</li> <li>・S-Gカテーテルを用いた測定</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>3)意識障害への対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)意識障害のある初療時の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>①意識障害の評価           ②運動機能の評価</li> <li>③頭蓋内圧亢進症状のアセスメント</li> </ul> </li> <li>(2)家族へのケア</li> </ul> </li> </ul>	講義・演習	河上 ひとみ
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>4)循環動態を改善するためのケア <ul style="list-style-type: none"> <li>①輸液ポンプ、シリンジポンプを用いた点滴静脈内注射の輸液管理（実技）</li> </ul> </li> </ul>	演習	岩本 聡
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>7. 周手術期における成人期・老年期にある対象の看護の実際 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)手術前患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)外来における手術前の看護</li> <li>(2)術前検査結果のアセスメントと看護援助</li> <li>(3)術前訓練の実際</li> <li>(4)ボディイメージ変化に対する支援</li> <li>(5)手術前日、当日の看護</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	講義	渡辺 功
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>2)手術中患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)手術による身体への影響</li> <li>(2)術前術後訪問と継続看護</li> <li>(3)麻酔導入時の看護</li> <li>(4)手術体位とその介助</li> <li>(5)手術中・手術終了時（覚醒時）の看護</li> <li>(6)手術室の環境調整</li> </ul> </li> </ul>	講義	古川 冬矢
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>3)手術後患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)麻酔、手術の影響と看護</li> <li>(2)手術直後の観察、管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>①意識レベルの把握</li> <li>②呼吸器合併症予防のための観察、管理</li> <li>③循環器合併症予防のための観察、管理</li> <li>④苦痛の緩和（疼痛の観察）</li> </ul> </li> <li>(3)術後回復を促す援助の実際</li> <li>(4)術後合併症の発生機序</li> <li>(5)術後合併症の予防と看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドレーン管理           ・水分出納 など</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	講義	渡辺 功

12	8. 術後看護の実際 1) 開頭術を受ける対象の看護 (1) 開頭クリッピング術 ・回復状態の観察 ・合併症（脳浮腫・後出血、脳血管攣縮など）予測と観察の視点 ・ドレーン管理（脳槽ドレーンなど） ・リハビリテーション ・回復に向けた精神的支援	講義	河上 ひとみ
13	2) 開腹術を受ける対象の看護 (1) 臍頭十二指腸切除術（PD） ・回復状態の観察 ・合併症（縫合不全、臍液瘻、後出血など）予測と観察の視点 ・ドレーン管理 ・血糖管理 ・回復に向けた精神的支援	講義	澤井 あゆみ
14・15	3) 開心・開胸術を受ける対象の看護 (1) 弁置換術・大動脈置換術 ・回復状態の観察（特に呼吸・循環管理） ・人工呼吸器装着中の看護 ・合併症（後出血、心タンポナーデ、不整脈など）予測と観察の視点 ・胸腔ドレーン管理 ・心臓リハビリテーション ・回復に向けた精神的支援	講義	白武 きりか
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 岩本 聡

分野	専門分野	科目名 単位(時間)	成人・老年看護学方法論Ⅵ 1単位(30時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2年 後期												
講師名 所属	今村 果奈代 嬉野医療センター 看護師(がん看護専門看護師研修修了者) 小森 康代 嬉野医療センター 緩和ケア認定看護師 井手 千佳子 嬉野医療センター がん化学療法看護認定看護師 野口 久美子 長崎医療センター がん看護専門看護師 橋本 沙樹 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師12年																		
授業概要	がんとともに生活する慢性期にある成人期・老年期の対象の理解と看護の特徴を学ぶ。腫瘍に関する基礎知識は病理学で、がん治療の一つである化学療法の基礎知識は治療論で学ぶ。がんに対する手術療法と看護については成人・老年看護学方法論Ⅲで学ぶ。本科目では日々進歩するがん医療の現状を学ぶとともにがんによる苦痛の緩和やがん治療に対する看護について学ぶ。また、入院、外来、在宅など多様な療養の場において、がん患者が継続して療養生活を送るための支援について学ぶ。																		
科目目標	1. がんと共に生活する成人期・老年期にある対象の看護について理解できる																		
テキスト	1. 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院																		
参考文献																			
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:25%;">筆記試験</td> <td style="width:10%; text-align:center;">○</td> <td style="width:25%;">レポート</td> <td style="width:10%;"></td> <td style="width:20%;">技術確認</td> <td style="width:10%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート		技術確認		口頭試問		授業態度		出席状況	
筆記試験	○	レポート		技術確認															
口頭試問		授業態度		出席状況															
授業計画																			
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師														
1・2	1. がん医療の現状と看護 1) がんを取り巻く現状 2) がん疫学とリスク要因 3) がんの予防と早期発見 4) エビデンスに基づくケアの実践 2. がんの病態と臨床経過 1) がん特有の病態と徴候 (1) がんの病態 (2) がんの診察・検査 3. がんの治療 1) がん治療の選択 (1) 治療方針が決定されるまでの流れ (2) セカンドオピニオン (3) インフォームドコンセント			講義	今村 果奈代														
3・4	2) 疼痛コントロール (1) がん疼痛の特徴 (2) がん疼痛の評価法 (3) がん疼痛に対する治療の基本 ① がん疼痛に用いられる鎮痛薬とその特徴			講義	今村 果奈代														

	<ul style="list-style-type: none"> <li>②投与量と鎮痛効果</li> <li>③鎮痛薬投与の原則</li> <li>4. がんの浸潤と転移 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) がんの浸潤・転移による病態</li> <li>2) がん性胸膜炎の患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 苦痛の緩和</li> <li>(2) 胸腔穿刺の実際と看護</li> </ul> </li> <li>3) がん性腹膜炎の患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 苦痛の緩和</li> <li>(2) 腹膜穿刺の実際と看護</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	講義	今村 果奈代
5・6	<ul style="list-style-type: none"> <li>5. がん患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) がん患者の苦痛に対するマネジメント <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 身体的苦痛</li> <li>(2) 精神的苦痛</li> <li>(3) 苦痛のアセスメントとマネジメント</li> </ul> </li> <li>2) がん患者の心理的・社会的サポート <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) がん患者とのコミュニケーション</li> <li>(2) セルフヘルプ活動</li> <li>(3) 家族への支援</li> <li>(4) 社会的サポート <ul style="list-style-type: none"> <li>①がん患者の就労支援</li> <li>②経済的サポート</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	講義	小森 康代
7～10	<ul style="list-style-type: none"> <li>6. がん治療に対する看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 薬物療法（抗がん剤・分子標的薬）の流れ <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) がん薬物療法の特徴</li> <li>(2) 薬物療法の施行が決定されるまでの流れ</li> <li>(3) 薬物療法の導入</li> <li>(4) 薬物療法の継続</li> </ul> </li> <li>2) 薬物療法のレジメン（治療計画）</li> <li>3) 薬物療法の実際</li> <li>4) 薬物療法における看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 副作用と合併症</li> <li>(2) 治療継続と生活調整に向けたセルフケア <ul style="list-style-type: none"> <li>①骨髄抑制への対応</li> <li>②不快症状の緩和</li> <li>③食べる事の支援</li> <li>④脱毛によるボディイメージ変化への支援</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>5) 曝露対策</li> <li>6) 免疫療法における看護</li> </ul> </li> </ul>	講義	井手 千佳子
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>7) 放射線療法における看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 放射線療法に対する準備教育</li> <li>(2) 効果的な治療を行うためのケア</li> </ul> </li> </ul>	講義	橋本 沙樹

	<ul style="list-style-type: none"> <li>(3)治療の継続と生活調整に向けたケア</li> <li>(4)放射線療法における看護の実際</li> <li>(5)放射線防護</li> </ul>		
12・13	<ul style="list-style-type: none"> <li>8)造血幹細胞移植と看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)患者・家族への援助 <ul style="list-style-type: none"> <li>①意思決定の支援</li> <li>②治療に対する患者教育</li> </ul> </li> <li>(2)造血幹細胞移植前・中・後の看護</li> <li>(3)ドナーの健康状態のアセスメントと援助 <ul style="list-style-type: none"> <li>①ドナー候補者の意思決定支援</li> <li>②幹細胞採取時のアセスメントと援助</li> <li>骨髄採取（骨髄穿刺の看護含む）</li> <li>末梢血幹細胞採取</li> </ul> </li> <li>(4)移植病室在室中の患者の援助</li> <li>(5)移植関連合併症のマネジメントと援助</li> </ul> </li> </ul>	講義	野口 久美子
14・15	<ul style="list-style-type: none"> <li>7. がん治療の場と看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)外来がん看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)外来がん看護を取り巻く状況</li> <li>(2)外来におけるがん看護</li> <li>(3)外来がん看護の役割と看護師の能力</li> </ul> </li> <li>2)がん患者の療養支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)療養の場の選択肢とその特徴</li> <li>(2)医療連携の実際</li> <li>(3)治療費や療養費の支援</li> <li>(4)がん相談支援センターとピアサポート</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	講義	井手 千佳子
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 橋本 沙樹

分野	専門分野	科目名 単位(時間)	成人・老年看護過程演習 2単位(45時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2年 後期												
講師名 所属	岩本 聡 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師12年 大坪 香織 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師19年																		
授業概要	<p>急激に健康状態が変化し、生命の危機状態にある急性期の成人期・老年期にある対象が回復に向かう過程で必要となる看護について事例を用いて展開する。また、慢性期にある対象が疾患の急性憎悪に陥り治療困難な状況から人生の最期の時期（終末期）に向かう過程で必要となる看護について事例を用いて展開する。</p> <p>専門基礎分野や基礎看護学で学んだ臨床推論、看護過程および成人・老年看護学方法論Ⅰ～Ⅵで学んだ成人・老年の特徴や時期に応じた看護を統合し、他職種・多職種とともに健康問題の解決に向けた看護を展開し実施・評価する。</p>																		
科目目標	1. 対象の特徴をふまえて健康問題に対する看護の方法を導くことができる 2. 対象に必要な看護技術を身につけることができる																		
テキスト	1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院 4. 看護診断ハンドブック リンダ J. カルペニート 医学書院 5. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 6. 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 医学書院 7. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院																		
参考文献	1. これなら使える看護診断 医学書院 2. 写真でわかる臨床看護技術② インターメディカ 3. 改訂第3版老年医学テキスト 社団法人日本老年医学会 4. 生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 医歯薬出版株式会社 5. 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 医学書院																		
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">筆記試験</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;">レポート</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">○</td> <td style="width: 20%;">技術試験</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>出席状況</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>							筆記試験		レポート	○	技術試験		口頭試問		授業態度	○	出席状況	○
筆記試験		レポート	○	技術試験															
口頭試問		授業態度	○	出席状況	○														
授業計画																			
回数	講義内容			教授・学習方法	担当講師														
1～3	1. 急性期から回復に向かう成人期・老年期にある対象の看護過程 （事例：胃癌の手術をうける成人期にある対象の手術後の回復を促進するための看護展開） 1) 術前の看護展開 (1) 起こりうる合併症のアセスメント (2) 起こりうる合併症を予測した術前準備			演習	岩本 聡														
4～6	2) 生命危機からの回復過程と看護 （術直後の看護展開） (1) 術前・術中の対象の状態をふまえた観察 ①対象の疾患の特徴や既往歴																		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>②術前のデータや術中、術後の経過</li> <li>③侵襲を受けた心身の生体反応</li> <li>(2) 酸素化促進・体液バランス管理</li> <li>(3) 苦痛緩和と安楽の確保</li> </ul>		
7・8	<ul style="list-style-type: none"> <li>3) 術後合併症予防の看護（術後1日目） <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期離床</li> <li>・創傷治癒過程の促進へ向けた援助</li> </ul> </li> </ul>	演習	岩本 聡
9・10	<ul style="list-style-type: none"> <li>4) 手術後の回復を促進するための看護実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 創傷治癒過程を促進するための看護実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドレーン管理</li> </ul> </li> <li>(2) 術後合併症予防の看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・術後1日目の離床時の看護実践</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>		
11・12	<ul style="list-style-type: none"> <li>5) ボディイメージの変化に対する支援</li> <li>6) 生活の再構築への援助</li> </ul>		
13・14	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 慢性期から終末期に向かう成人期・老年期にある対象の看護過程 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 臨床経過の把握</li> <li>2) 意思確認と倫理的課題</li> </ul> </li> </ul>	演習	大坪 香織
15・16	<ul style="list-style-type: none"> <li>3) 対象のQOLを重視した意思決定支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) グリーフケア <ul style="list-style-type: none"> <li>治療・処置に伴う意思決定支援</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>		
17～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>4) 症状緩和、エネルギー消費を最小限にしたケアの工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 食欲不振や全身倦怠感に対する援助</li> <li>(2) 気道分泌亢進に対する援助</li> <li>(3) 終末期せん妄に対する援助 等</li> </ul> </li> </ul>		
22・23	<ul style="list-style-type: none"> <li>5) 死の受容過程 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) グリーフケア <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者・家族の死の受容過程に対する支援</li> <li>・医療従事者のケア</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>		
	終講試験	レポート（評価）	単位認定者 大坪 香織